平成 30 年度　未来をつくろう　市民と市長の地域懇談会

報告書

日時	平成 30 年 10 月 24 日（水）　午後 6 時 30 分～8 時 5 分	
場所	山部福祉センター	
参加者数	２３人	
市側出席者	市長	北　猛俊
	副市長	石井　隆
	教育長	近内　栄一
	総務部長	稲葉　武則
	市民生活部長	山下　俊明
	保健福祉部長	若杉　勝博
	経済部長	後藤　正紀
	建設水道部長	吉田　育夫
	教育部長	亀渕　雅彦
	ぶどう果樹研究所長	川上　勝義
	企画振興課長	西野　成紀

【市長　開会のあいさつ】

夏の 30 度がなつかしい感じとなり、夜は特に冷える日が続き、落ち葉も舞う時期になりました。本日は夜分にも関わらず、このように地域懇談会に足を運んでいただきまして、心からお礼を申し上げます。地域懇談会は今日で 10 カ所目となり、中心街は概ね終了し、本日から農村部を回らせていただいています。

本日は富良野市が抱える解決しなければならないＪＲの関係、庁舎の関係、そして山部地区では中学校の閉校の関係について、今までの経過とこれからの考え方を説明させていただきますので、みなさんからご意見をいただきたいと思います。あわせて、地域の課題についてもご意見をいただければ幸いです。

就任の時からお話しさせていただいていますが、これからのまちづくりは市民と行政がそれぞれの役割を自覚しながら進めていくことが、新しい公共のあり方になっていくと考えています。その上でこの地域懇談会は重要な役割を果たしていると思いますので、限られた時間ではありますが、忌憚のないご意見をいただきますよう、よろしくお願いします。

１．鉄路のあり方

【ご意見】	【市の回答・対応方針】
○守る会の活動もあって取り組みとしてはやっているが、具体的な活動が乏しいように感じる。自分たちが何もしないで、ただ守れと言っても仕方がない部分もあるので、鉄道の日や鉄道に乗る日の制定などの取り組みを具体的にしていかないと、市民活動レベルにつながっていかない。山部では有志で毎年ＪＲに乗っているように、具体的に対応していかないと市民が参加せず、ただの傍観者になってしまう。特に貨物輸送については、無くてはならない交通機関なので、何とか市民レベルでの参加を求めていくような方法を取ってほしい。また、今の根室線は使いづらい時間帯の便になっていて、従来よりも利便性が悪いと感じる。時間帯のことも要請や検討をしてほしい。	○時間帯については他の会場でも出されています。利用したいときに便がないため、違うものを利用しているという話も出ています。ＪＲは通勤・通学を基本に考えていますので、他の方が利用しようとすると、利用しづらい状況になっているのが実態だと思います。
○「乗って守ろう！根室本線」ということで、人を集めて実際にＪＲに乗っているが、私たちの運動はいくらか効果があるのか。また、市民のみなさんや地域からは根室本線が無くなると話が出てきている。これだけ赤字を抱えてＪＲがやるわけがないとの声もきく。	○山部地域で取り組まれている活動は広報紙をはじめ、昨年の地域懇談会でも紹介させていただいています。また、根室本線対策協議会を組織している自治体に対しても、みなさんの取り組みを広げてほしいと話しています。道庁の富良野―新得間の考え方は、当初「利便性の高い最適な交通ネットワークの確保に向け、地域における検討・協議を進めていく」としていましたが、その後の道議会や地域の意向を踏まえ、後段に「検討にあたっては、道北と道東を結ぶ災害時の代替ルートとし

て、また、観光列車など新たな観光ルートの可能性といった観点も考慮することが必要である」という考え方が新たに加わりました。根室本線対策協議会としても、代替えルートや観光ルートとしての可能性を含めて模索をしているところです。

２．山部中学校の閉校について

【ご意見】	【市の回答・対応方針】
○中学校の閉校は地域にとっては大きな損失であると考えているが、できれば閉校後の校舎を含めた施設の活用が地域にとって有意義なものになってほしいと願っている。今後の進め方について説明してほしい。	○現在、教育委員会としての活用計画はありませんが、今後、市全体の中で検討していきたいと思います。その際には地域からの要望をいただきながら検討し、場合によっては民間への売却なども一つの選択肢になってくると思います。 ○閉校後の利活用は現時点では方向性は出ていませんが、閉校後も地域に悪影響を及ぼさないよう、施設と環境管理を教育委員会で引き続きやっていきます。また、過去に閉校になった学校では教育委員会が窓口となって利活用を検討してきましたが、総合的な判断が難しい状況もあったことから、この 10 年間は市や教育委員会など関係部署で構成する利活用検討委員会の中で、地域の意見や要望などを踏まえて、どういった形が山部地域の振興につながり、教育財産としてプラスになるかなどの観点で考えていきたいと思います。先行事例として紹介しますが、小中併置校となった麓郷中学校は教育委員会が管理していましたが、総務部で所管していた太陽光発電の事業者のグラウンド利用希望があり、利活用検討委員会で検討し 20 年間の賃貸をしています。また、校舎と体育館については地域からご意見をいただきましたが、実現するには至らず、現在は文部科学省のマッチング事業やホームページを活用しながら活用していただける方を募集している状況です。
○人口が減り、子どもたちがいなくなってしまうのであれば、閉校はやむを得ないと思うが、跡地利用をきちんとしてほしい。地域としての意見集約はまだできていないが、住民からの意見を募りながら地域としての要望をまとめていきたい。過去には山部第１小学校、山	○中学校の塗装については、塗装が剥げている状況が見受けられますが、平成 32 年度の閉校があり、その後の利活用も決まっていないため補修をしていません。利活用が決まるまでは、一定程度教育委員会で維持を考えていきたいと思います。

部第２小学校が閉校しているが、未だに問題を解決していない状況。地域の住民や通行人が不快に感じるようになっては困るので、そうしたことも含めて対応してほしい。去年ぐらいから中学校の屋根がさびてボロボロになっているように感じる。跡地利用の要望については地域の住民と相談して市に要望していきたい。	

３．防災について

【ご意見】	【市の回答・対応方針】
○台風や地震などの影響で北海道内でも被害があったが、一昨年は山部地域では避難をしたこともあった。先日は山部地区でも消防訓練が実施され、地域としては良い訓練になった。やらないことはできないので、日頃からこうした訓練をしてくことが大事。防災は基本的には自己責任で自分の命は自分で守るという原点があって、公助、共助となっていく。自分たちが守るためのシステムやノウハウ、誰が何をするのかといった取り決めが無ければいけない。一昨年の避難の時には、そうした準備もできていない中で、地域住民はとても不安な思いをした。また、避難場所に指定されている小学校ではなく、中学校への避難となった。避難した地域も国道よりも下の地域住民だけ避難し、大変不安な状況におかれた。そうした考察はそれぞれやっていると思うが、地域には戻ってきていないので、今後どうしたら良いのか困っている。春にも防災講習会を開催し、各町内会で防災のために話し合いを行ってくださいと周知をしているが、市の考え方や指針などがあれば伺いたい。	○山部地区には全地域に自主防災組織ができていて、先進的な地域だと認識しています。自主防災組織で検討する際は、市（総務課）も呼んでいただいて一緒になって検討させていただきたいと思います。また、安全安心メールの登録についても、改めて地域内での周知をお願いします。
○今回の停電では、山部市街地はすぐに復旧したが、何か理由があるのか。	○正式に北電から、山部と東山の復旧が早かった理由を知らされていません。

【市長　閉会のあいさつ】

限られた時間ではありましたが、熱心にお聞きいただき、ご意見もいただきありがとうございました。地域の課題もお聞きしましたが、数少なかったようです。今後、振興会が中心となって市に要望を出していただく際にうかがえればと思います。地域懇談会はこれで幕を引きますが、この後もいろいろな機会を通じて、みなさんからご意見を出していただければありがたいと思います。

冒頭のあいさつで話したとおり、みなさんのご意見でまちがつくられますので、これからも行政運営にご理解とご協力をよろしくお願いします。本日はありがとうございました。

【参加者アンケートの主なご意見】

年齢区分	性別	ご意見
29 歳以下	男性	・山部中学校は廃校後も避難場所として使えるように残してほしい。
40-49 歳	男性	・新庁舎は、防災拠点機能を基本方針にするのであれば高い階に発電設備を設置し、発電設備の定格容量は大きいものにしてほしい。
50-59 歳	男性	・今回のテーマ課題は、いずれも人口減少、少子化が根本的な要因であると考える。場あたり的対処で将来にツケを残さないよう人口動態も視野に入れて、自治体として持続可能な方策を検討してほしい。 ・簡単なことではないが、人口が増えれば多くの課題は解決の方向へ進む。上川管内でも人口増の自治体があるので、そうした事例に学んでほしい。
60-69 歳	男性	・学校跡地を有効に活用してほしい。 ・山部地区も人口減少が進んでいるので対策がほしい。 ・空き家が増えて困っている。